令和7年 飛躍の年に！
今年も東部公民館をよろしくお願いします。

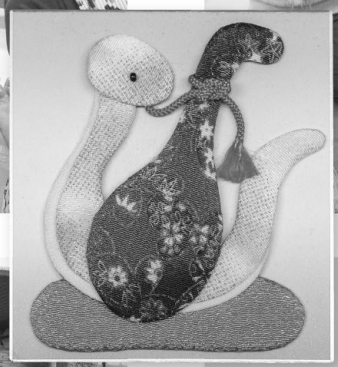
令和七年、あけましておめでとうございます。東部地区では、年末・年始に様々な行事が行われました。その一部を写真で紹介します。
皆さんにとってみ（巳）のり多き、飛躍の年となりますことをお祈りいたします。

▲新春 書初め大会（1月4日）

東部ひろばから

▲餅つき大会（12月7日）

▲しめ縄づくり講習会（12月14日）



▲日赤奉仕団・防災部合同視察研修（12月3日）

▲干支押絵雛講座（11月25日）

今年も東部公民館は、「つどう」「まなぶ」「つなぐ」の精神で、皆さんをお待ちしております。
どうぞお気軽に東部公民館にお立ち寄りください。

松本城とわたし

題字　三代澤 東鱗

今回は、今井常雄さん（東町3丁目・92歳）から寄せられた松本城の想い出をご紹介します。

水野家が松本城主として松本藩を治めていた時代。松本藩の年貢増加に反対した多田加助らが磔（はりつけ）にされたとき、お城の天守が大きく傾いたという逸話。また水野忠恒が刃傷事件で改易となった事に寄せて加助を供養し敬ってきた話が伝わる。（※注釈）

月日は流れ、太平洋戦争後の食糧難で、お城の庭園は全面が畑に変わり、トウモロコシなどが立っていたのを覚えている。食糧難が良くなると、畑は野球場に変わった。小学生の頃だったか、お城側と反対側にホームベースが置かれ2カ所で野球が始まった。ゴムや布の球で、外野はお互いがダブった形で守っていた。お城は荒れ放題で、石垣をのぼって中に入り、走り回った。5階の天井から縄が下がっていて、屋根瓦が剥がれており、それに飛びついて大屋根に出たことが思い出される。多くの歳月が流れ、現在松本城を世界遺産にとの話があるが、当時を振り返ると隔世の感がある。

先頃、音信が途絶えていた従兄弟がアメリカのサンフランシスコから来訪し、松本城を案内した。ルーツの地にある文化遺産に大変喜んでもらった。

▲加助の睨みによって傾いたとの伝説もある松本城（明治40年ころ）

松本市 編『国宝松本城』, 松本市, 昭和16.
国立国会図書館デジタルコレクション

※注釈　貞享3年（1686）に松本藩領内で起きた大規模な百姓一揆。「貞享騒動」として記録され、加助騒動とも呼ばれる。水野家3代藩主の忠直が年貢の大幅な負担増を課したことに反対する農民が藩内全域で蜂起、1・700人余りが城下に押し寄せた。騒動を収束すべく、一旦は要求を呑むとして引き取らせた。しかし、年貢減免は反故となり、多田加助ら首謀者8名が磔、20名が獄門という極刑に処された。加助は刑死の際に松本城を睨み、天守が傾いたという伝承が残る。

また騒動の40年後に発生した刃傷事件も狂気によるものとされたが、加助の祟りの故などとも言われた。

「松本城とわたし」投稿募集中

松本城に関する「思い出」や「写真」など、皆様からの投稿お待ちしております。詳細は東部公民館（36－8565）までお電話にてお問合せください。

「三九郎」ってだれ？ 今さら聞けない三九郎の謎に迫る

「三九郎」は、松本の人には馴染み深い言葉ですが、市外から越してきた人たちは「三九郎ってだれ？」と不思議に思います。

小正月に正月飾りを焼く風習は全国各地にあり、長野県内や東北、関東では「どんど焼き」、京都や北陸等では「左義長」などと呼ばれます。「三九郎」は松本近辺だけ。なぜそう呼ばれるのか、改めて調べてみると諸説あるそうです。

- **●道祖神のお札「神主福間三九郎」の人名説。**
- **●三九郎と呼ぶ木の人形の名という説。**
- **●凶作・重税・疾病の「三つの苦労＝三九郎」を燃やすという説。**
- **●三本の柱に、九段に横木を渡すからという説。**
- **●松本城を築いた石川氏時代の文書に登場する3人の三九郎との関係説。**

他にも色々な説があり、謎は深まるばかり…。ともあれ、松本の人々は三九郎と呼び続けてきたことは確かです。

松や竹、ワラなどを使った正月飾りを年末に飾り、松の内が過ぎると取り、小正月の頃、女鳥羽川の河原などに書き初めとともに積み上げ、ダルマを巻いて三九郎が出来上がります。点火して勢いよく燃える炎、熾（おき）で焼くまゆ玉の素朴な香ばしさに、良い年であるようにと願う気持ちが自然と湧いてきます。

東部地区では、年末に福澤伸起先生を講師に「しめ縄講習会」が開かれます。多少不恰好なのも味のうちで、自分で作ったしめ縄は嬉しいもの。「しめ縄づくり→三九郎→まゆ玉を焼く」の流れを味わえるのも現代では貴重な機会でしょう。

元々子どもだけで行なっていた三九郎は、現在は子ども会を中心に大人も大活躍です。大人も子どもも忙しく、また個々の思いが大切にされる昨今では、伝統行事や地域の集まりは負担となることもあるでしょう。でも一歩外に出て参加してみれば、素朴さが案外楽しい。熱い炎がいい。冷たい空気も清々しい。寒さも吹き飛びます。

田んぼで稲を作り、お米やお餅を食べてワラを活用し、里山の松や竹も活かしてきた長い歴史に思いを馳せつつ、松本だけに居てくれる三九郎さんに改めて親しみを感じる新年です。

（原山美果さん・出居番町）

今年の三九郎は

東部地区では、1月11・12日の両日に7カ所で三九郎が実施されました。11日夕刻の桜橋周辺には4子ども会の三九郎が集結し、大勢の親子連れが集まり、賑やかな三九郎となりました。

三九郎に点火され、大きな炎に包まれると、無病息災を祈り煙を浴びたり、まゆ玉を焼いたりする姿が見られました。今年子どもたちの間では、抹茶やチョコレートを練りこんだまゆ玉がブームとなっており、新味のまゆ玉を自慢げに頬張っていました。

▲清水東区の三九郎（1月11日 桜橋付近）